

「令和」の時代に期待する！

今月（5月）から新元号「令和」が始まりました。「令和」の由来は、7~8世紀（奈良時代）の「万葉集」梅花の歌（作者：大伴旅人）が出典とされております。「万葉集」は、天皇、皇族、歌人、さらに農民など幅広い階層の人々が詠んだ約4,500首の歌が収められています。

4月1日に総理官邸で発表された新元号「令和」の意味とは、

春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花の様に、一人ひとりが明日への希望と共に、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込めて決定したということです。

「令」は旧暦の「例月=2月」が由来で「何をするにも良い月」「素晴らしい月」「めでたい月」という意味です。「和」は「日本」「争いごとのない」などの意味があります。

「昭和」という時代は、敗戦後、すさまじい勢いで経済成長がありました。「モーレツサラリーマン」という言葉もあり、そのピークがバブル経済でした。昭和64年（1989年）から平成元年となり、翌年（1990年）からバブル経済が崩壊していきます。

「平成」では「JAPAN AS NUMBER ONE」の頂点からリーマンショックや山一証券の倒産もあり一挙に経済的に儉約を覚える時代となりました。デフレが先行し、物の値段が上がらず、フリーターや非正規雇用などの言葉通り働く者にとって冬の時代でした。

「令和」となり、これからの時代は身分や人種差がない国境を越えた平和な時代になる事を期待しています。しかし、トランプさんが「AMERICA FIRST」などナショナリズムが台頭している世界は、第2次世界大戦前の昭和

和初期の時代に似てきています。米中経済戦争など時代に逆行する言動を止めて、世の指導者は「平和第一」を掲げて平和な時代になるように努力してもらいたいものです。

さて、5月11日の「沖縄タイムス」に「**恩人探し**」報道に涙というタイトルが目にとまりました。4月20日に沖縄工業高校2年の崎元君（17）が、那覇空港に向かっていたモノレールで航空代金が入った財布を無くしてうなだれていた時に、同乗していた猪野屋さん（68）が「どうしたんだ」と声をかけ、なくしたお金6万円を貸して連絡先も確認しないで崎元君を与那国行きの出発便へ急がせたようです。

埼玉に戻った猪野屋さんは知人らにこの事を話したが「だまされたんだよ」と笑われたと言います。半ば諦めていたところ同僚から電話で崎元君が探している事を知り「やはり沖縄の人は優しいよ。涙が止まらなかった」と話したということです。後日、二人は沖縄で会う予定だそうです。猪野屋さんは母親が沖縄出身で首里中・高校から新潟大学医学部に進み、現在は脳神経外科医ということです。

「令和」の時代は、こういうお互いに信用・信頼できる時代になってもらいたいものです。

（たまなは）

